

研究業績

バリウム排泄に関与する下剤と水分の効果について

—巡回胃癌検診アンケート結果より—

富山県厚生連高岡総合検診センター

山岸 律子, 渋谷 直美

森内 尋子, 橋瓜 信子

宮田 吉高, 野崎 豊

はじめに

成人病の死亡原因のトップを占めるのは癌ですが、その中でも特に胃癌による死亡率は高く、富山県は昭和63年は全国2位、平成元年は4位と常に上位にあります。早期発見早期治療が叫ばれ、各医療機関や検診施設では、胃癌検診を最重点に実施しています。

しかしながら、この検診に欠かせないのがバリウムですが、排便困難や便秘などを訴える人は少なくありません。

今回当院の巡回胃癌検診受診者のバリウム排泄実態を把握し、下剤や水分の効果をもとめたので報告いたします。

目的

胃癌検診後のバリウム排泄状況を把握し、下剤の与薬量と水分飲用量が、現在の指導で妥当か否かを検討する。(現在の指導は、検診直後にプルセニド2錠の与薬と水分はできるだけ多く飲用するよう勧めている。)

方法

検診終了後、下剤と共にアンケート用紙を渡し、約1週間後に面接回収をした。(バリウムはバリトップ100を使用している。)

対象

農家組合員と農協職員1000名

アンケート回収数 956名 (96%)

アンケート有効数 678名 (71%)

年齢構成

29才以下 3% 30才～39才 19%

40才～49才 24% 50才～59才 29%

60才～69才 22% 70才以上 3%

結果

1. 図1と図2から、83%の人が下剤2錠を服用し、70%の人が水分を1～2杯飲んでいる。

図1 下剤服用状況

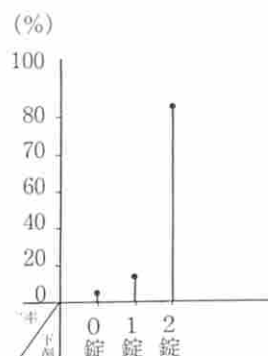


図2 水分摂取状況図

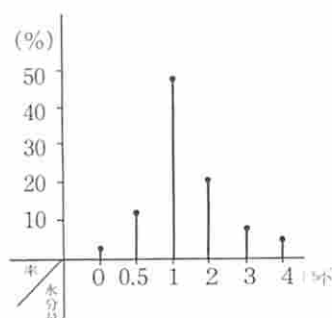


表1 男女別排便習慣

		排 便 間 隔							便の性状	
		1	2	3	4	5	6	7	普	硬
男	29以下	17	4						19	2
	30～	77	16						74	11
	40～	66	10						72	4
	50～	74	5						71	5
	60～	74	11						69	12
	70～	12	4						12	4
	計	320	50						317	38
女	29以下	11	1						13	
	30～	70	20	12	1				83	16
	40～	108	29	20	10		2	1	122	28
	50～	144	45	12	5			1	160	35
	60～	96	34	6					106	25
	70～	8	2		1				10	3
	計	437	131	50	17		2	2	494	107

表2 下剤服用時の水分の種類

水分の種類				
水	牛乳	茶	ジュース	他
9	10	2		1
48	28	6	4	1
51	14	8	1	1
44	28	4	2	
65	21	6	1	1
11	4	2		
228	105	28	8	4
10	4	1	1	
64	31	14	3	6
113	49	16	4	2
145	84	26	4	3
93	54	24	3	3
10	6	1		
435	228	82	15	14

表3 下剤服用時の水分の種類

	水	牛乳	茶	ジュース	他
人数 (人)	435	228	82	15	14
率(%)	(56.2)	(29.5)	(10.6)	(1.9)	(1.8)

- 図3から下剤0錠の人は特に排便時間のピークはないが、1錠と2錠内服した人では6～12時間後に排泄した人が多い。水分量が排便に及ぼす影響についてはグラフの形がほぼ同じで今回の調査からは水分を多くとれば早く排便があるとはいえない。
- 全体では、36時間未満に99.6%の人が排便があった。

考察とまとめ

- 結果より下剤の内服した群では、6～12時間後に排便者が多いのは、下剤の効果発現時間の8～12時間に合致しており下剤の効果によるものと思われる。

- 各下剤群と各水分群の関連を検定した結果有意差はなかった。但し、水分の0杯と0.5杯以上は、有意差があった。
- 水分と排便の関連は、今回のデータからは明確でないが、便を軟かくする為には飲用すべきであろう。
- 下剤も水分も飲用しなかった人は25人あるが、意識的に服用しなかったのか保健指導が不適切であったかは不明である。
- 今後保健指導する時は、下剤の与薬方法は本人の排便習慣を考慮して、2錠を基準に適宜増減与薬し、水分は最低1杯以上飲用するよう勧めることが望ましいと考える。
- 今回の調査は、男女区別、過去の排便習

図3 下剂量別・水分量別・排便状況

図3-1 下剤0錠

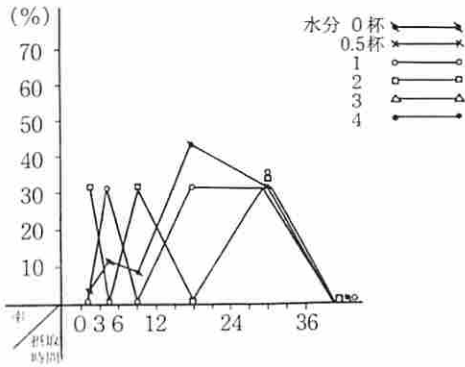


図3-2 下剤1錠

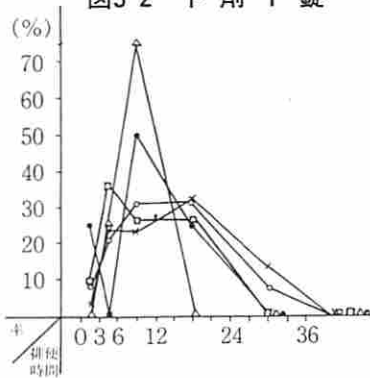
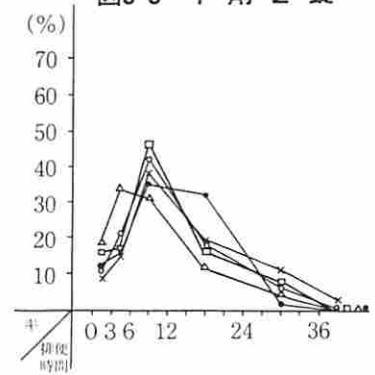


図3-3 下剤2錠



慣は考慮に入れてはない。下剤服用時の水分分量だけでなく排便迄の総水分量をも関連づけて検討すべきだろうと思われました。

おわりに

このアンケート結果で胃検診後のバリウムの排泄状況を知り現在の下剂量と水分飲用指導は適切と思われる。今後の課題として排便困難者の苦痛症状に対してもっと対策や援助をしていかなければならない。